BAISOUIN NEWS AOYAMA

梅窓院通信

春彼岸号

No.141

2026/03/01

青山

春の光に包まれた満開の桜。

住職挨拶

梅窓院第二十五世 中島 真成

令和八年もはや二月となりました。皆さまお変わりなくお過ごしでしょうか。

このところ、月日が経つのがより早くなっているように感じています。

ＳＮＳやＡＩなどをはじめとする技術の進歩、高齢化や少子化による社会構造の変化という目まぐるしく大きな動きが拍車をかけているのでしょうか。

さて、以前に開山忌を寺内での行事にさせていただく旨をお伝えしましたが、今年から施餓鬼会と十夜会を中止させていただくことを決断いたしました。

それこそ三十年前は檀信徒さんが逝去されると、枕経に伺うことから葬儀が始まりましたが、コロナ禍もあり、今は枕経どころかお通夜もされない葬儀が増えています。いわゆる一日で行う家族葬が梅窓院でも主流となっています。

こうした変化には高齢化で寿命が伸び、九十代を過ぎて亡くなられると、葬儀に参列される友人や知人もお歳をとっており、会葬に来られない方ばかり、という背景があるようです。それに加え、コロナ禍での人との接触を避ける日常生活が、ある意味、習慣化してしまったようにも感じます。

もともとお寺の行事にお越しいただけるのはご高齢の方々でしたから、年々参拝者が少なくなるのは世の流れということでしょう。

ということで、毎年、施餓鬼会と十夜会にお越しいただいていた皆さまには寂しい思いをさせますが、どうぞご理解ご容赦くださいますようお願い申し上げます。

お知らせをもう一つ。法事でお使いいただいている客間を全室、畳からフローリングに変えています。二月中旬には終わる予定です。こちらも靴を脱いだり履いたりすることが大変、というご高齢の方への配慮とご理解ください。今号は大きな変化をお知らせするご挨拶となりましたが、ご理解ご協力をいただくとともに引き続き梅窓院をよろしくお願い申し上げます。

法話

仏教歳時風物詩（72）

彼岸会の集い

新宿区　香蓮寺住職　勝崎 裕彦

春のお彼岸を迎えての寺参り、墓参り。ようやく身心にも感じるような温かみを増してきた春の日差しの暖かさの中で、お寺での法要や墓前の供養に、言葉を交わし合い、笑顔をほころばせ合い、心を寄せ合って、ともどもに集い合う。彼岸会、彼岸参りは、春の日の暖かさの中に、お参りする人々の心の温かさを分かち合う営みでもある。

『阿弥陀経』に説かれる「俱会一処」、俱に一処に会するとは、極楽浄土に往生して、すぐれたよき人々とともにひとところに集い合うということであるが、ともかく、よい人、好もしい人と、親しい人、近しい人と、好きな人、愛する人と、一緒に集う、一緒に集まるということは、どんなにかすばらしい、たのしいことであろう。春のお彼岸の好季好期を、仏心を育てはぐくむありがたい好機会と受けとめて、ともになかよく、なごやかに集い合うことをいたし合いたい。

ここでは春のお彼岸時分の俳句の中から、好もしいやさしい心、慕わしいおだやかな心を汲み取って、なごやかな温かい心を確かめ合いたい。

お彼岸のきれいな顔の雀かな　（一透）
春分のおどけ雀と目覚めけり　（麥丘人）

春のお彼岸と雀である。おだやかな時候と自分自身のやすらかなありようを彼岸雀のありさまに見事に捉えた作句と言えよう。明治四十年生の勝又一透は富安風生門で「若葉」同人。雀の「きれいな顔」を見て取った慈眼が慕われる。星野麥丘人は大正十四年生で、石田波郷、石塚友二に師事して「鶴」を継承した人。「おどけ雀」と一緒に目を覚ましたお中日の朝である。

春の日やみ仏の足一指反る　（欣一）
ハンカチでものを包みて彼岸かな　（林之助）

沢木欣一は大正八年生。東京帝国大学国文科を卒業し、東京芸術大学教授を長く勤めた人である。加藤楸邨に師事し、「風」を主宰して、「即境俳句論」を提唱した。この句は春日うららかな一日、仏像を拝してその足の小さな指の一つに「反り」を見つけて目にとめたのである。八木林之助は大正十年生。「鶴」の句会に参加し、しめやかな繊細な句風で知られる。この句も「ハンカチでものを包みて」という小さな行為を捉えて、それを彼岸日和の中に置いたのである。

彼岸会の若草色の紙包　（眸）
春日いま人働かす明るさに　（眸）

岡本眸は昭和三年生の知的な感性を持った女流俳人である。富安風生、岸風三楼に師事して、「朝」を主宰。はじめの一句は、「若草色の紙包」を注視しているだけであるが、なにか明るい鋭さがある。そしてそれは人を大きく働き動かすような春の持つかぎりない「明るさに」通じて行くものであろう。

今回は私自身が書き留めてきた春のお彼岸の伝道句をいくつか挙げてみたい。

春彼岸なつかしき人への墓参り
老いも子も心寄せ合う彼岸道
大きかな慈悲の宝珠や彼岸晴れ
集い合う彼岸笑顔に幸多し
南無彼岸入り日に祈る無事平安

さて今日は春のお彼岸のお中日。菩提寺での彼岸会に集い合い、ご本尊阿弥陀如来に合掌礼拝しながら心から祈り願う――、まわりの人、相手の人と思いやり合い、いたわり合い、助け合い、支え合いながら、一歩一歩しっかりと歩み合うことができますように、ともどもに正しく生き生かされ合うことができますように……。

（大正大学名誉教授）

十一月・十二月・一月の行事報告

第十八回 文化講演会 十一月三十日（日）

アーティスト・僧侶の西村宏堂上人にご講演いただきました。

絵馬回向 十二月十二日（金）

絵馬に託した願いが、来る年の光となりますように。

修正会 一月一日（木）

本堂に太鼓の音が鳴り響きました。

春彼岸法要

三月二十日（金・祝）

彼岸寄席

午後一時～ 地下二階 祖師堂

春彼岸法要

午後二時～ 地下二階 祖師堂

※祖師堂入口はご利用いただけませんので、ご注意ください。
※場所や内容が変更になる場合がございます。

立川小談志（たてかわこだんし） 師匠

プロフィール

昭和五十一年九月八日生まれ。
岐阜県出身、本名は寺田政春。
一九九九年五月　立川談志に入門。
前座名「談吉」。
二〇〇七年七月　二ツ目昇進、
「泉水亭錦魚」を襲名。
二〇一一年十一月　談志死去のため、
二〇一二年四月　龍志門下へ。
二〇一五年十月　真打に昇進、
二代目「立川小談志」を襲名。

塔婆申込みに関するお知らせ

塔婆回向料…**1本／7,000円**

●お申込み方法
同封はがきにご記入の上、**3月9日（月）必着**でお申込みください。
現在、郵便物の投函から到着までの期間が延びております。塔婆をお申込みの際は、早めのご投函をお願いいたします。
また、直前のお申込みの場合は、**お電話でも受け付けております**ので、どうぞご連絡ください。

●お支払い方法
同封の振込用紙で**郵便局**にてお支払いいただくか、当院受付までお持ちください。**銀行・コンビニでのお支払いはできません。**
また、払込取扱票に記載の**口座番号00130-4-93033**はお支払い金額ではございませんので、ご注意ください。

●お塔婆のお渡し
春彼岸会法要終了後にお渡しいたします。ご欠席の場合は後日、僧侶にて建てさせていただきます。
ご不明な点は梅窓院受付までお問い合わせください。

お檀家様へお願い

・お彼岸前後の土・日・祝日はお参りに来られる方で境内が大変混み合います。ご来寺の際は電車等、公共交通機関をご利用ください。
・3月17日～23日まで、境内駐車スペースは、お体のご不自由な方、車椅子をお使いの方の車を優先とさせていただきます。ご協力お願いいたします。
・会場内の空調は微調整が難しいため、ご自身で温度調整できる服装でご来寺ください。

春彼岸会によせて

春彼岸は、三月の「春分の日」を中日として前後三日間の計七日間を指し、最初の日を「彼岸入り」、終わりの日を「彼岸明け」といいます。春分の日は、太陽が真東から出て真西に沈み、夜と昼の長さがちょうど同じになるとされ「暑さ寒さも彼岸まで」と言われるように、お墓参りしやすい安定した気候になるのが特徴です。

お彼岸期間中は古来より、在家の人達に向けて説かれた悟りをひらくため仏道修行「六波羅蜜（ろくはらみつ）」の教えを学ぶ大事な修行の場とみなされており、前三日間、後三日間は六波羅蜜を一日一つずつ修める日とされています。「六波羅蜜」の教えとは、かいつまんで言いますと以下の六つになります。

一）布施（ふせ）＝他人への施し
二）持戒（じかい）＝戒を守り、反省する
三）忍辱（にんにく）＝不平不満を言わず耐え忍ぶ
四）精進（しょうじん）＝目的に向かって精進努力する
五）禅定（ぜんじょう）＝常に心を安定させる
六）智慧（ちえ）＝真実を見る智慧を働かせる

仏道修行を営むのに最適なお彼岸にこそ、みんなで集中して六波羅蜜を実践してみようという絶好の機会です。全ての存在に感謝する報恩感謝の精神が基本になっており、お彼岸にご先祖様のお墓参りをしてお供えをする行為も、六波羅蜜の修行の一環と言えます。

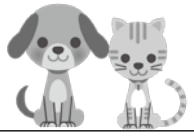
どうぞ皆様、三月二十日（金）春分の日には梅窓院祖師堂にて大法要も開催されております。ご先祖様に感謝し、是非お墓参りにお出かけ下さいませ。

合掌

（法務部　菅原麻耶）

令和8年　春のペット慰霊法要のお知らせ

梅窓院僧侶がご供養を勤めます。ぜひご参列ください。
開始時間:正午～　2階本堂
主催:株式会社ジャパンエキスパートシステム



89歳のお医者さん

帯津良一先生の新連載インタビュー

あの世があるから この世が楽しい

おびつ　りょういち

1936年埼玉県川越生まれ。幼少時には浄土宗の檀林、蓮馨寺が遊び場だった。東京大学医学部卒、東京大学医学部第三外科医局長、都立駒込病院外科医長を経て、1982年に帯津三敬病院を開業。2004年に池袋に帯津三敬塾クリニックを開設。主にがん治療を専門とし、西洋医学と中国医学などの代替療法を用いて、患者一人ひとりに合った診療を実践している。著書多数。

今号から八回にわたって、がん治療の専門家で、病気だけでなく人全体を診るホリスティック医療を提唱する八十九歳の現役のお医者さん、帯津良一先生のエッセイを連載します。連載にあたって帯津先生にあの世の話を中心に伺いました。

編集部　連載、よろしくお願いいたします。まず、いただいたタイトルに驚かされました。お医者さんは、人のいのちを守るのが仕事で、フィールドはこの世、あの世はそれこそお坊さんのフィールドかと思っていましたので。

帯津良一先生（以下帯津先生）　そうですよね、驚かれますよね。ですが、私が一九八七年に提唱し始めたホリスティック医療というのは、簡単にいうと、丸ごと医療で、あの世も含まれるという捉え方です。

編集部　とても興味深いですね。

帯津先生　今回の連載で、私の医者としての経歴や今に至る経緯をお話ししますが、ここでは、あの世を考える転換点を詳しくお話ししておきます。それは、一人のお坊さんとの出会いでした。

編集部　お坊さんですか。

帯津先生　はい、呼吸法の協会の会長になっていた頃で、谷中の臨済宗のお寺に毎月講演に行っていた時の話です。

　すでにホリスティック医療を標榜する帯津三敬病院を開き、患者さんに寄り添う医療をモットーにしていた頃でした。ある時、患者さんへの寄り添いの話をしたのですが、時々来る若いお坊さんから、「先生の寄り添いには大賛成しますが、先生や看護師さんが寄り添うのは、身体で寄り添っているだけ、せいぜい心で寄り添うくらいで、命で寄り添っている人はいませんね」といきなり言われたのです。戸惑いながらどういうこと、と聞くと、「医療者の方は死を命の終わりと見るから寄り添えない。死を命のプロセスのひとつとして見れば、死の向こう側が見えてきて、命に寄り添うことができるのです」と。

埼玉県川越にある帯津三敬病院。

　なるほどと思い、それで色々考えて、確かにこの世だけを見ていたらホリスティックではないな、あの世をしっかり見据えて、この世にいるうちから、あの世に対する希望や展望を持って歩を進めていってこそホリスティック医療だ、と気付かされたのです。

編集部　死んでも命は終わらない……、ということでしょうか。

帯津先生　私には三人、特に会いたい人がいます。一人目は太極拳の先生で、太極拳を直接教わってはいなかったのですが、何故か気が合って、いつも一緒にお酒を飲んでいた先生。私がこの病院で看取りました。二人目はこの病院の総婦長さんだった人で、五年前に亡くなっています。三人目は飲み屋さんのママです。

　この三人には、あの世で再会して、杯を酌み交わしたい。これは私にとっては大切な希望で、この世を生きる原

動力と言ってもいいのです。

編集部　浄土宗には、倶会一処という教えがあります。この世から旅立ち、西方極楽浄土に生まれ変わり、阿弥陀様の元で仏道に励んでいる人たちに再び極楽浄土で会える、という教えです。

帯津先生　そうなのですか。同じ考え方ですね。

編集部　死後の世界を確信されたきっかけは何でしたのでしょう。

帯津先生　私は病院で亡くなった人を何人も看取っていますが、例外なくやがて安堵の表情に変わります。

　この世での仕事を終え、いよいよ故郷に帰れるぞ、という安心感がそうさせるのでしょう。で、故郷とはあの世ですね。行ってみないとわかりませんが、あの世はあると思っています。

編集部　先生が考えるあの世を教えてもらえますか。

帯津先生　あの世を私は虚空と呼んでいるのですが、これは量子力学の世界で、あるときは粒子、ある時は波動となる二面性を持っていて、ある時は形のあるものの営み、ある時は場の営みになると考えています。そして非極在性というのですが、同時に何箇所でも存在できるのです。

　この虚空は今よりも幅も奥行きも広い世界になりますから、もうこちらの世界には戻ってこないでしょう。中にはこの世でキャリアを積んだ人で、戻ってくる人もいるとは思いますが。

編集部　死後の世界が素晴らしい、と考えると死に対する気持ちが変わってきそうですね。

帯津先生　ええ、死を恐れる必要がなくなります。人間、歳をとれば老化するのですが、多くの人はそれに立ち向かいます。いわゆるアンチエイジングと呼ばれています。

　ですが、私が勧めるのは、ナイスエイジングです。老化や死を認めて、それを受け入れた上で、老化に対しては楽しく抵抗する。まなじりを決して抵抗しない。

　そして元気でいるには、立ち働けることが大事ですから、そのために大切なことが二つあります。脳梗塞にならないことと、下半身を弱らせないことですね。

編集部　なるほど。

帯津先生　私自身、六十歳になってから世の中が楽しくなって、七十歳で体力の衰えを感じ、八十歳になったらあの世が恋しくなった。早く逝きたくなりましたが、呼ばれるまで急ぐことはないと思ったら元気な自分になっていました。来年九十歳を迎えるとどうなるのか、楽しみです。

　「人生の幸せは後半にあり」。これは江戸時代に貝原益軒が書いた『養生訓』の言葉ですが、歳を重ねてきたからこそ、この世を楽しく生きたいですね。

編集部　そうですね。ぜひ、先生の今月から始まる連載（七ページ）で色々教えてください。楽しみにしています。

帯津先生は、白衣は着ない主義とのこと。帯津三敬病院の受付前にて。

おすすめの最新刊

『やり残したことは、死んでからやればいい』

89歳現役医師が教える上機嫌に長生きする秘訣

帯津良一著　（株）廣済堂出版

これまでの健康に関する常識を覆す一冊。食べ物や心の持ち方、呼吸法、老いの不安との付き合い方など、帯津流の長生き術が満載されています。

インタビュー

梅窓院を囲む人々

supporters of baisouin

岐阜県郡上市 山川 弘保（やまかわ ひろやす）市長

今号は梅窓院の開基、青山家の故郷、岐阜県郡上市の山川弘保市長を訪れ、お話を伺いました。4期16年という長期にわたった前市長の安定市政からバトンタッチし、人口減少と少子高齢化という、地方行政に限らない大きな課題に積極的に取り組まれています。その熱い思いをお届けします。

◆本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございます。

山川弘保市長（以下山川）　はるばる遠路をお越しいただけて、嬉しい限りです。よろしくお願いいたします。

◆早速ですが、郡上市民病院の脳神経外科部長をされていたお医者さんから市長さんになられたとのことですが、大転身された理由をお聞かせください。

山川　私は長く市民病院に勤務していたのですが、何をするにも条例で規制されることが多く、それならいっそのこと自分が条例を作る側になろう、が出発点です。

◆そうですか、具体的かつ明確な目標への強い思いが市長への道を拓いたのですね。今の課題は何ですか。

山川　人口減少です。昨年度郡上市で生まれた赤ちゃんは138人、今年度の予想は110人です。この先細りを解消するには、やはり若い人に故郷に留まってもらうこと、一度都会に出ても戻ってきてもらうことが必要です。

そのためには青少年時代に、机上だけでなく郡上の魅力を肌で感じてもらい、郷土愛を持ってもらうことですね。幸い郡上には山と川という自然があり、青山家が残してくれたお城や、郡上踊をはじめとする多くの伝統芸能もあります。そうした魅力に自分たち自身で気づける環境を私たちが整えること。行政からの指導や補助の時代ではなくなりつつあると思います。

◆具体的な例はありますか。

山川　キャンプガイドや魚釣り、スキーのインストラクターと四季折々の自然にあった仕事をしている若者がいます。同じ仕事で一年を過ごすのではなく、郡上ならではの環境に合わせた新しい働き方です。

◆なるほど、季節に合わせて仕事を変える訳ですね。これは都会では真似できない。

山川　限られた財政ですから、各種行事への一律補助をカットしたところ、どうしてもやりたい行事だと地元企業に協力を仰ぎ、そして踊りに加え音楽フェスやマルシェなどを自分たちで工夫した行事を企画実行する若者たちが出てきています。どちらも押し付けでない自分たちのアイデアですから、SNSなどで友達に呼び掛けているようで、その輪が広がって若者が集まってきています。

プロフィール

山川弘保（やまかわひろやす）郡上市長。
1959年岐阜県郡上郡高鷲村（現郡上市高鷲町）生まれ。高鷲小学校、高鷲中学校、郡上高等学校、岐阜大学医学部卒業。
岐阜市民病院脳卒中センター長などを経て、平成23年から郡上市民病院で勤務。脳神経外科部長兼救急科部長などを務め、令和6年4月に第3代郡上市長に就任。

郡上市役所の特別会議室にて。

◆自発的な行事は魅力的ですね。話は変わりますが、郡上に住まわれている青山幸紀さんが青山家の15代当主に指名されましたね。

山川　はい、過日も他県の知事の会談に青山幸紀さんも同席いただき、青山家当主としてご挨拶いただきました。

◆そうですか、それは心強いですね。

山川　私事ですが、私の祖母は郡上八幡青山家の分家の血筋でして、青山家とのご縁は深いのです。

◆なんと、深いご縁ですね。

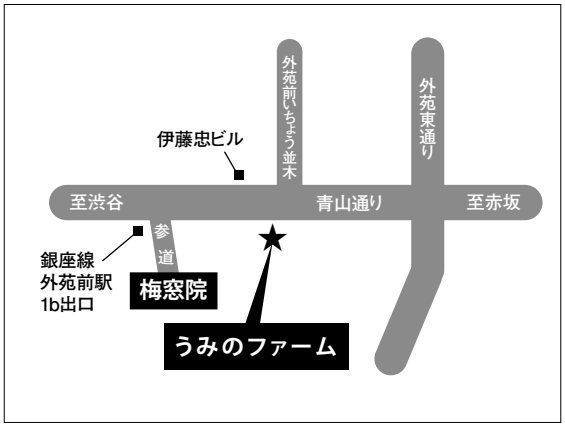
山川　郡上の歴史を振り返れば、青山家の善政があっての今ですから。私も微力ながら見習いたいものです。

◆ぜひ、その決断力と実行力で、より魅力的な郡上にしていただきたいと思います。梅窓院にとっても郡上は故郷ですので。

ザ・ドリフターズの仲本工事さんに似ている、とご自分でもおっしゃる山川市長。病院時代に患者さんと触れ合っていたこともあってか、気さくでフレンドリーな方でした。

青山散歩道

うみのファーム



営業時間／11:00～20:00
ご予約はできません。
定休日／なし。
※ 最新情報は店舗まで直接お問い合わせください。
席数／20席（カウンター席14席・2人掛けテーブル6席）
住所／東京都港区南青山2-11-14
TEL／03-6271-5581

今回は、梅窓院から青山一丁目駅方面へ徒歩5分の場所にある「うみのファーム」をご紹介いたします。

2024年9月にオープンした同店は、高知県橘浦（たちばなうら）でこだわりの方法で養殖された鮮度抜群で肉厚なぶりと黒まぐろの採れたての美味しさを広めたいという思いで東京に進出した、海鮮丼専門店です。

ぶりの養殖方法をもとに養殖に成功した黒まぐろとぶりの2種類が、甘めの特製だれで堪能でき、お刺身の定食にはぶり専用のたれもあります。

ぶり・まぐろともに、夏はさっぱり、冬はたっぷりと脂がのり味わいが異なるので、季節ごとの表情を味わえ、何度訪れても新しい発見があるのも魅力の一つです。

中でも一番人気は、ぶりとまぐろを併せて味わえる「ぶり・まぐろ丼」。

また食品ロスを無くす取り組みの一貫として一日数量限定で切り落としをふんだんに味わえる「まかない丼」も提供されています。

木目調の内装とやわらかな照明がつくり出す落ち着いた空間で、お仕事の合間やお墓参りの帰りに、新鮮なぶりとまぐろに舌鼓を打つひとときを過ごしてみてはいかがでしょうか。

特製のたれをかけて味わうお店自慢のぶり・まぐろ丼

手早く食事を楽しめつつ居心地の良さも大切にした店内

あの世があるからこの世が楽しい

帯津良一

1 がん治療の現場に身を置いて六十三年

がん治療の現場に身を置いて六十三年目に入りました。最初の二十年は外科医として食道がんの手術に明け暮れ精を出し、次の五年間は、中西医結合によるがん治療を旗印にかかげた病院を開設し、その後現在までの三十八年間は理想のホリスティック医学を追い求めてということになります。

医学部の学生時代に将来の進路を決めるにあたって、自分は研究者や教育者には向いていない。一介の町医者になろうと決めたのでした。そして一介の町医者なら一人で出来ることが多い方がよいということで外科を選びました。それも消化器外科が専門の第三外科に入りました。

ところが、ここで食道がんのチームに配属されたのです。食道がんの手術といえば、消化器がんのなかではいちばん難しい手術です。一人で出来る手術ではありません。一介の町医者には無用の長物です。しかし、教授の命令に背くわけにはいきません。そこで気持ちを切り替えました。

一介の町医者はひとまず棚に上げ、食道がんの手術の名手になってやるぞと腹を決めたのです。それからはこの道一筋です。着々と成果をあげている一九七五年の四月に東京都が都立駒込病院を改造して東京都のがんセンターをスタートさせました。全国からスタッフが集められました。私も食道がん手術スタッフの一人として呼ばれ、勇躍参加したものです。

全国から集められた精鋭たちの作る場のエネルギーはきわめて高く、ここでの七年間は私のなかに医師としての素養をしっかりと築いてくれました。私が今在るのはこの七年間のおかげとすら思っています。しかし、と同時に西洋医学を正しく評価する力も植え付けてくれたようです。

西洋医学が生命を見ようとしないのが気になり出したのです。生命を科学がまだ解明していない現在、西洋医学が生命を対象としようとしないのは当然と言えば当然なのですが、それでも医学である以上、生命を見ようとする姿勢は必要なのではないかと考えたのです。そこで、すでに生命を見ようとしている医学を合わせてみようと思いました。

すでに生命を対象にしている医学とは何か。それは中国医学です、中国医学の手法は、いわゆる弁証論治。患者さんの病態を証として捕らえて、これに応じた治療を行うのです。証とは、

「内なる生命場の歪みのベクトル」

であると、私なりに理解していました。生命場とは体の中の隙間に生命の根元となる物理量が分布して織りなす場。この場のエネルギーが生命。何らかの原因でこのエネルギーが低下した時、これを回復すべく生命場に本来的に備わっている能力を自然治癒力と考えたのです。そこで北京市がんセンターで中国医学の基礎を学んだあと、一九八二年十一月に中西医結合のがん治療の病院を開設しました。

寺報『青山』のお知らせ

2026年より、お盆号を盆施餓鬼号として施餓鬼号を休刊、
また十夜号も休刊させていただきます。

令和8年度 前期 仏教講座のご案内

梅窓院では4月より「令和8年度前期仏教講座」を開講します。今年度前期も4名の先生が担当します。どうぞお気軽にご参加ください。
※詳細は別紙チラシをご覧ください。

行事予定

春彼岸会法要

3月20日（金・祝）
寄席　午後1時～　祖師堂
法要　午後2時～　祖師堂
※詳細は3面をご覧ください。

3月20日（金・祝）～21日（土）
郡上八幡ふるさと物産展　観音堂

はなまつり

4月2日（木）～ 8日（水）
2階　本堂
お釈迦様の誕生日をお祝いする「はなまつり」。寺院棟2階本堂エントランスに花みどうがございます。皆様どうぞご参拝ください。

第92回 念仏と法話の会

6月2日（火）
講師　長野県長野市　徳行坊
　　住職　若麻績大成上人
※詳細は別紙チラシをご覧ください。

発　行　梅窓院
発行日　令和8年3月1日
発行人　中島 真成
編　集　広報部
住　所　〒107-0062
東京都港区南青山2-26-38
電　話　03-3404-8447
F A X　03-3404-8107
ホームページ　https://www.baisouin.or.jp/
E-Mail　jodo@baisouin.or.jp
題　字　中村康隆元浄土門主
総本山知恩院第八十六世門跡

梅窓院のお墓とペット供養の窓口

ジャパンエキスパートシステム　墓苑事業部からのお知らせ

春のお彼岸のペット法要に向けて墓苑部は忙しくしております。お申込みご希望の方、https://baisouin.net/こちらのページからもお申込みできますのでぜひご確認ください。

ペットは亡くなると虹の橋を渡って、いつか飼い主が亡くなったら迎えに来てくれるという話は、ペットを亡くした方たちの心を癒してくれます。虹の橋のお話は海外の詩により世界に広がっていった、と聞きました。私が亡くなったら歴代のワンコ達が迎えに来てくれるのかと思うと嬉しくてたまりません。

お彼岸は、ご先祖様に思いを寄せる特別な機会。お参り前にお墓のお掃除、お手入れご希望の方も墓苑部にご連絡ください。今の時期は雑草はほとんど生えませんが、花粉、黄砂などで結構、墓石の汚れが気になるかもしれません。濡れタオルなどで拭いてみてください。お墓参りの際に墓苑部スタッフを見かけたら何の依頼など無くても、お気軽にお声がけくださいね。

（墓苑事業部　森（03-3404-1230））

郡上八幡 ふるさと展

3月20日・21日10:00～17:00
（最終日16:00終了）　観音堂

特産品が目白押しの郡上八幡ふるさと物産展が今年も梅窓院にやってきます！この機会にぜひお求めください。

お檀家さんに伺いました

令和7年 十夜会

『感謝の思いを込めて』

詠唱講員として活動を始めてから十年以上が経ちます。できる限り法要に参加したいと思い、本日の十夜会も参加いたしました。五年前に主人を亡くし、詠唱のお稽古があるたびにお参りして、ご先祖様に対しても「いつも守ってくれてありがとう」という気持ちを胸に、手を合わせています。
梅窓院は心落ち着く大切な場所です。本日のように、法要の後にご僧侶による法話を拝聴しますと、深い学びやありがたさを改めて実感いたします。また、最後には雅楽の演奏も拝聴し、その美しい音色に心が満たされる思いでした。